

JCPN
NEWSLETTER 2026

「仕えること」昨年、10月以来、主のお導きを頂き、私たち夫婦が福岡県・佐賀県に居住し始めた事は不思議です。私の師匠・児玉牧師、そして、そのまた師匠・松村秀一牧師は、戦後まもなく、福岡県大牟田市に在住していました。その松村師がおっしゃった言葉が、私の心に響きました。「君。宣教師になるには、2つの大切なことがあります。1つ。徹底的に仕えること。2つ。宣教報告をきちんと送り続ける事」これを聞いたとき、「あっ。私はできない」と。

今回、主が私たち夫婦を日本での宣教に送り出して下さることとなり、現在、佐賀県鳥栖市で「みくにキリスト教会」での開拓伝道をサポートする役割を与えられています。言い換えれば、宣教師の働きです。開拓伝道牧師の働きと思って、この地にやってきたのですが、主は私に宣教師として、この開拓教会に仕える役割を与えられました。私が不適格と認めていた役割です。長年、1つの教会で牧師をしてきた私は、自分でも気づかないうちに、お山の大将になっていました。今回の体験を通して、主は私に仕えることを学ばせてくださっています。この群れに、福岡県宗像市在住のご夫妻が、毎週、1時間半ドライブして、礼拝と午後の集会に来て、私を手伝ってくださっています。この方々とともに、主は、私たちに福岡県会津若松市での新規教会開拓を、導かれています。今年秋には、こちらに移る計画です。それが主の御心なら、喜んで従います。今回の日本宣教を通して、主が私に仕える事を学ばせてくださっています。

「それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また、多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。



JAPANESE HOPE MOUNTAIN FAMILY CHURCH /

日本ホープマウンテンファミリー教会

2025年も神様の守りと働きの中で、たくさんの祝福とチャレンジを受けてきました。

私たちの教会は、2009年にコロラド州デンバーメトロで始まりました。その時アメリカ人と日本人の国際結婚の夫婦とその家族が伝道対象の中心にありました。そのため、教会スタート時から、日本語と英語への通訳の二か国語で礼拝を行なっています。そして、昨年10月に創立16周年を迎えました。



しかし、興味深いことに、ここ数年日本語に関わりの薄い方々の礼拝参加が増えています。それはアメリカ人だけではなく、韓国、中国、台湾、インドネシアなどをバックグラウンドに持つ方々が毎週集ってきています。その中には、教会員としてコミットメントされた方もおられます。

アメリカにある日本人教会として、あらゆる場面で日本人への福音伝道を祈っています。私たちが直接伝道できない日本人たちに、これら異なるバックグラウンドを持つ方々を主が用いてくださる時が来ることを期待しています。

そんな中、11月にアメリカ人のR兄がバプテスマを受けられました。日本語を話せない彼を救いに導いたのも、やはり日本語が話せないアメリカ人で教会員のE兄でした。なぜこのような救いがこの日本語教会で起こるのか、神様のみ業の意外さと素晴らしさに驚かされます。

また、教会員の方で赤ちゃんが誕生される方々が起こされています。他にも幼い子供を連れて定期的に来られる方もおられます。0歳から90歳の方まで幅広い年齢の方が集い、毎週賑やかで楽しい時となっています。

毎年恒例になっている、餅つき、母の日ランチ、父の日ランチ、独立記念日BBQ、そしてファミリークリスマスなどのイベントも好評でした。特にファミリークリスマスは、食事とゲーム、協賛をいただいたレストランなどからのギフトも用いて大盛り上がりでした。これからも、イベントなども用いながら、外に向けての発信を続けていきます。

その一方、引越しなどで教会を離れていく方もおられます。ここ数年、教会リーダーとして働いて来られた方々が、次々に去っていかれました。日本語/英語の通訳者は、多い時は5人いたこともありました。しかし、最近減り続け、今年5月について私たちの2人の娘たちだけになってしまいました。英語を話す方が定期的に来られる中、通訳者の減少は、通訳者たちの肉体的、霊的負担が増えています。通訳の奉仕は神の特別な賜物とスキルが求められます。主の大いなる導きを祈り求めています。



礼拝中での子供たちの時間



R兄バプテスマ式

Eugene Japanese Baptist Church (EJBC)

オレゴン州ユージーンから、こんにちは。

EJBCでは、日本人や日本語を話す方々のための教会として歩み続けながら、日本や日本語に関心を持つ方々、日本を思い祈ってくださる方々、そして留学生などが集まり、神様の愛を分かち合っています。小さな交わりの中にも主の導きがあり、一人ひとりとの出会いに感謝しています。EJBCでは引き続き常任牧師が不在で、Byron Siemsen兄弟が代務牧師として教会を支え、奉仕してくださっています。礼拝や交わりを通して教会を励まし、祈りをもって導いてくださっていることに感謝しています。毎週の礼拝には平均15~20人ほどが集まり、共に賛美し、みことばに耳を傾けています。教会が今後の歩みの中で、主の備えておられる導きを受け取ることができるようお祈りください。また、一旦ユージーンを離れていたM兄弟が、大学に編入し、ユージーンに戻ってきて、再び賛美リーダーとして奉仕してくれています。ユージーンに戻ってくるには、さまざまな障害がありましたが、主が祈りを聞いてくださり、このように導いてくださったことを感謝しています。共に賛美をさげられる恵みに励まされています。

さらに、毎週月曜の夜にはYouth Groupが集まり、聖書を学び、イエス様を通じた交わりの時を持っています。若い世代が共に神様のことばに触れ、励まし合いながら成長していく時間となっています。昨年は、6月19日に井上薫牧師、7月6日に高木康俊牧師、そして10月7日には高見澤栄子牧師をお招きし、特別集会を行いました。それぞれの先生方を通して語られたみことばに、多くの励ましと恵みが与えられました。また、普段は教会に来られない方々も集会に足を運んでくださり、新しい出会いや交わりの機会が与えられたことを感謝しています。また、International Student Lunchでは、1か月に1度くらいの頻度でEJBCがカレーライスを提供する奉仕を続けています。University of Oregonをはじめ、地域の大学の留学生たちが毎回60人ほど来てくれます。日本人学生にとっては懐かしい家庭の味、日本人以外の方にも人気のメニューで、みんなに喜んでもらっています。食事を囲みながら自然な会話や交流も生まれているようです。留学生のお腹と心を満たすこの働きが福音を届ける大切な入り口となるようお祈りください。さらに、教会員の中には日本からの留学生や日本語のイメージンスクールに訪れるインターンを受け入れている家庭もあります。生活を共にし、一緒に食事をし、必要なサポートをしたり、日曜日の礼拝にも一緒に集う中で、イエス様の愛を分かち合う機会が与えられています。これらの働きが守られ、多くの人々に主の愛が届けられるよう、引き続きお祈りください。



カレーライスの準備。



Youth Groupの集まり



日曜礼拝。M兄弟が賛美リードチームで奉仕してくれています

ピッツバーグ国際日本語教会 土橋稔史

今年一年も神様はピッツバーグ国際日本語教会を守ってくださいました。年2回（クリスマス、イースター）の対面礼拝以外はオンライン礼拝でしたが、月一度は教会員が自発的に集まって励ましあい、教会としては祝福された一年であったように思います。「それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです（第一コリント12:22）」とパウロが言ったように、体の弱い私を様々な人がサポートしてくれて教会が成り立っているような気がします。特に若い教会員の夫婦に子供が授かったことは、とても嬉しい限りでした。神様が与えてくれた命をみんなで喜ぶことができ、世代を超えて一致することができたように思います。その一方、信徒の娘さん（40代）が闘病の末に天に召されるということもありました。今まではこの世での祝福を求める人々が多かったのですが、それを通して、天での祝福を求めるようになり始めたように思います。

私は時々「こんな形で牧師を続けていて良いのだろうか」という思いに駆られることが時々あります。そんな時は、「神の賜物と召命は、取り消されることがない（ローマ11:29）」の御言葉を思い出して自分を励ましています。様々な事情により牧師という肩書きはなくなるかもしれませんが、牧師としての召命は死ぬまで続きます。この御言葉にしがみつき、もう少しこの形で死ぬまで牧師を続けていきたいと思っています。

今年一年を通して考え続けたことは、「何事も愛に根ざして行動する」ということです。今更ながらと思う人も多いと思いますが、複数の方から「牧師につまずいて教会に行くのをやめた」という話を聞いたからです。理由は様々ですが、多くの場合、牧師の偽善的な行為を見た時に信徒は失望して教会に行くのをやめるようです。だから、牧師には普通の人以上のモラルが要求され、そのために過ちを犯さないように一挙手一投足に慎重になることが大切です。しかし、それ以上に大切なのは、何をする時も愛を動機にすることだと思います。なぜなら、「愛は多くの罪を覆う（第一ペテロ4:8）」と書かれているように、愛に基づいた行為は失敗しても許してくれることが多いからです。私は失言や失敗の多い人間なので、何事にも愛に根ざして行動していきたいと思っています。



14年目にして初めてバナーができました。

イースター礼拝での記念写真です（2026年4月）

ゆいまーる石川キリスト教会

2023年8月より礼拝を開始して早くも2年9ヶ月になります。

昨年、祈り続けていた若い同労者が二人与えられましたが、昨年の12月に教会を離れて行きました。

また、10月より牧師家庭で育った若い女性で、1年間の予定で教会開拓に協力をしてくださるという事で海外から、参加をして下さいましたが、12月末をもって教会を離れて行きました。

二人とも、教会を離れた理由は良くわかりませんが、地道な活動である教会開拓の理解が違っていたようです。

しかし、昨年の5月から来られている、88歳のMNさんと9月から昔教会に行っていた事があるという98歳のMIさんが毎週礼拝に参加して下さい、とても励ましを受けています。

彼女たちは、毎週教会に来るのがとても楽しみで、日曜日の朝は必ず、「今日は何時にお迎えですか」と電話がかかってきます。

また、礼拝中は、若者のような眼をして真剣にメッセージを聞いて下さり礼拝後の、愛餐会でも楽しく過ごされています。

沖縄に来て感じた事は、クリスチャンになりたてのころに沖縄のクリスチャン人口は4%くらいで、本土から比べるとクリスチャン人口が多いと言われていました。

しかし、実際に沖縄に来てみると、中学生の頃まで教会に通っていたという人に何人もお会いします。沖縄の人たちは中学を卒業すると、高校、大学に進学や集団就職のために沖縄を離れて、本土や外国に出て行って、教会を離れてしまう人が多くいたそうです。

私が知り合う人たちは、70歳過ぎの人たちが多くので、多分戦後沖縄にアメリカの宣教師が来られて、伝道をし沢山の人たちが教会に行くようになったようです。

当時は、特別な娯楽もなく日曜日には、教会に行くのが生活の一部になっていたようです。

そんな中、昔教会に通っていた人たちに、「あなたは救われていますか」と質問してもどういう意味かと逆に質問されることが多いのです。

沢山の人たちが教会に毎週通って来ていましたが、宣教師や牧師先生は、「救い」までの話が出来なかったのではないかと思います。

現在、高齢の方を含めて毎週5人で礼拝をしていますが、彼女たちの真剣な姿を見るととても励まされます。

今年に入ってから、シングルマザーや若い人への伝道に加え高齢者の方々への伝道にも力を入れて活動しています。



今年の3月には、元やくざの井上薫先生ご夫妻が、教会を訪問して下さい、井上先生のお話に真剣に耳を傾けておられました。

前回のニューズレターでも報告しましたが、子供の頃教会のクリスマス会に友達を沢山連れて来なさい、と教会の人から言われ大勢の友達に声をかけたところ、こんなに沢山連れてきて、と言って怒られたと言う話をお伝えしましたが、今回も別の方から同じ話を聞きました。そんな話を聞かされると、やはり福音が伝わっていないために、教会に戻って来るわけがないと思いました。今聞くととても贅沢な話かと思いますが、とても残念です。

2月からアメリカによるイラン攻撃が始まり、近所にある嘉手納基地より、毎日、ジェット戦闘機や輸送機などが飛び交うようになり、3月に入り騒音が更に、激しくなりました。

沖縄の米軍基地が攻撃されないように、祈るばかりです。

2026年5月6日
ゆいまーる石川キリスト教会
鈴木 ケン

ポートランドJIBC 横井ミチ牧師

2025年も、JIBCポートランドの働きを覚えてお祈りくださり、心より感謝申し上げます。

2025年は、JIBCにとって試練の多い一年でした。詳細は控えますが、ほぼ全世代にわたり、7名の方々が突然天に召される出来事が続きました。今も悲しみの中を歩んでおられるご遺族の方々がおられます。どうぞお祈りください。

そのような中でも、主の恵みと祝福を多く見る一年でもありました。これまでイースターは、多くの来会者が与えられ、駐車スペースや運営面で課題もありましたが、今年は子どもミニストリーリーダーたちの提案で、イースター前日の土曜日にエッグハントを開催しました。礼拝のない土曜日にどれほど人が集まるか不安もありましたが、結果として100名以上の参加者が与えられ、普段出会える事のない方々、駐在員の方々などとの繋がりもできて、大変祝福された時となりました。

夏のファミリーリトリートでは、日本から長沢崇史先生をお招きし、主の臨在に満ちた恵み深い交わりの時を持つことができました。

また今年は、日本人男性・日本人女性向けの新しいミニストリーが形になり始め成長し始めた年でもありました。これまではJIBCは英語寄りのバイリンガル中心の働きが多かったのですが、「日本語で日本人を招き、育てるミニストリーをしたい」という思いを持つ方々が立ち上がり、その働きが広がりつつあることを感謝しています。



さらに、長年JIBCの霊的・精神的支柱として仕えてくださったマイク前主任牧師と由美子夫人が、宣教のため10月に日本へ旅立たれました。一方で、新たに90歳の元庭師・Nさんが与えられ、数名の方々と共に教会敷地の美化を力強く進めてくださっています。2026年のカンファレンスで、その変化をご覧いただけることを楽しみにしています。



試練も祝福も多かった2025年でしたが、振り返ると18名の新メンバーが加えられ、16名の方々がバプテスマへと導かれました。2026年は、JIBCにとって新しい体制や変化を整えていく転機之年となります。引き続きお祈りに覚えていただければ幸いです。



JIBC ARIZONA アリゾナ州フェニックスJIBC

ハレルヤ、主の御名をほめたたえます。



今、JIBCアリゾナは恵みと祝福と希望に満ちあふれています。現在、主の導きにより無牧の状態ですが、どんな時でもイエス様の祝福と恵みが絶えることがないという御約束を、実際に体験しています。様々な問題を祈りながら、すべて主に委ね肅々と進めていく中で、もちろん辛いことや悲しいこともあります。しかし主の憐れみは、JCPN運営委員会の牧師先生方やその他の牧師先生を通して、私達に豊かに注がれています。主の決して見捨てない無条件の愛は、教会の信仰を深め、悔い改めを促し、癒して下っていることを実感しています。

特にこの一年間、JIBCアリゾナを通して主の御手が大きく働いているのを感じます。

昨年末には、広いアリゾナ各地の日本人クリスチャンが一堂に会し、主を賛美する目的で設立された AJCF (Arizona Japanese Christian Fellowship) 主催の超教派クリスマス賛美集会が行われました。多くの未信者を招いて、イエス様の御降誕をお祝いすることができました。

また、北米最大の学生向けキリスト教宣教会議「アーバナ・カンファレンス (Urbana)」が初めてフェニックスで開催され、当教会からも若者たちが参加しました。日本や他州から来た学生たちをホストする機会も与えられ、祝福の時となりました。さらにカリフォルニア州で行われた EC (Equippers Conference) にも、中・高生を送り出すことができました。素晴らしい主の祝福を浴びて満たされ、きらきらとした目の輝きとともに帰ってきた生徒たちを見て、胸が熱くなりました。

3月には、JCPNの牧師先生方がお忙しい中毎週フェニックスに来て下さり、聖日の説教はもとより、教会運営に関する貴重な助言や励ましをいただきました。毎年恒例のピクニックも大盛況で、最小の準備で最大の祝福が与えられました。



4月には、JIBCから二人のアメリカ人の若者を、祈りと祝福をもって日本留学へ送り出し、日本から若者が戻るという祝福もありました。そして年末から春の間に3人の大学生がイエス様を受け入れて救われ、イースター聖日にバプテスマ式を行うこともできました。主の御手が大きくこの教会の上にあることを確信できる、素晴らしい栄光の現れに涙があふれました。

小グループ(SG)での聖書の学びも続いており、新しい参加者や新たなリーダーも与えられています。特に日本語女性のSGは、3年越しで取り組んだマルコの福音書の学びを終えるという大きな節目を迎え、御言葉の学びへの意欲を新たにする良い機会となりました。留学生ミニストリーでも、ファーストレベルの学びの機会が与えられ、未信者の学生と福音をシェアする喜びを体験しています。

すべてを通して働かれる主の大きな愛に、感謝と賛美の念が絶えません。

最後に、JIBCアリゾナのために心を砕いて祈って下さっている牧師先生方や聖徒の皆さんに、心から感謝します。皆さんの祈りの応えとして、私たちには「イエス様がおられるから大丈夫だ。」という確信と平安が与えられています。この確信は決して揺らぎません。これからも主の御手がこの教会を導き、栄光を現し続けることを信じて、歩み続けてまいります。アーメン。

今年のイースター礼拝は、4月最初の日曜日にあたり、サンディエゴ希望教会の二周年と重なる特別な機会となりました。

今年は、イースター礼拝そのものに焦点を当て、特別な記念礼拝としては実施しませんでした。それでも教会の節目を覚えて、多くの方々が足を運んでくださいました。

この2年間の歩みを振り返ると、多くの皆さまの祈りと支えを通して、神の恵みによって導かれてきたことを改めて実感いたします。当日は約70名が集い、イエス・キリストの復活をともに喜び祝うことができました。礼拝後に行ったミニ運動会も大変好評で、世代を超えた温かな交わりの時となりました。

礼拝開始から2年が経ち、サンディエゴの日本人コミュニティとのつながりも、少しずつ広がりを見せています。一つはサンディエゴ日系ビジネス協会を通して、もう一つはピックルボールを通しての交わりです。

今回のイースター礼拝では、ピックルボールグループから12名が初めて教会に来られました。コミュニティの広がりとともに、キリストの福音がさらに届けられていくよう、宣教の思いを新たにしながら歩みを進めていきたいと願っています。

日系ビジネス会とも交流を深めていますが、先日はビジネス定例会にて希望教会が実践しているAI通訳のプレゼンテーションをさせていただき、また希望教会のことを知ってもらう機会となりました。

今後は、留学生や、ミリタリー関係で国際結婚をされている方々にも、さらに積極的に働きかけていきたいと考えています。

また、1年前に開始した子ども向けの日曜学校も、限られた奉仕者の中で運営されていますが、これまで主の守りと豊かな祝福のうちに支えられてきました。

この一年は特に、「教会メンバーシップの確立」を一つの目標として取り組んできました。教会にコミットする者同士が、キリストの弟子として共に成長していくことを願ってのことです。

夕方礼拝という特徴もあり、午前中は他教会に出席し、夕方に希望教会へ来られる方も一定数おられます。そのため、メンバーシップに加え、「パートナー」として関わる形も整えました。

一方で、今年はメンバーとなられた方々の中にも、引っ越しなどにより転出が予定されている方が複数おられます。引き続き課題はありますが、これから神がどのように希望教会を建て上げてくださるのかに期待しつつ、祈りながら導きを求めていきたいと思います。

日頃より、お祈りをもって支えてくださっていることに、心より感謝申し上げます。サンディエゴ希望教会の今後の歩みのために、引き続きお祈りくださいますよう、よろしくお願いいたします。

感謝を込めて

サンディエゴ希望教会 林 雄司



ビジネス会での
プレゼンテーション



子どもの日特別礼拝と運動会



イースター礼拝



オーランド日本語インターナショナル教会 (高岡宏光・恵)

礼拝出席12～15名という規模で長年続けてきた私たちの教会ですが、昨年末をもって主力メンバーのご夫婦二組が教会を去られ、いちから開拓し直すような覚悟でスタートした2026年ですが、現在、レギュラーに礼拝に参加してくださる未信者の方が4名おられ、礼拝出席は相変わらず12～15名という状況です。

オーランドの日本人コミュニティに、どのようにしたら教会を身近な存在として認知していただけるかを祈りつつ模索してきましたが、教会のイベントなどに参加してくださる方々の中から、「この場所を日本人のためにもっと活かしたい」と願う方が起こされ、その方が主催する日本人のグループと私どもの教会との共催という形で、着物の着付け教室やおせち料理の交換会などを行うことができました。クリスチャンでない方が呼び掛けてくださるため集まりが良く、しかも教会との共催であることをご了解の上で皆さん参加されますので、自由に福音を伝えることができました。また、日本語補習校を離れて2年ほど経ちますが、今でも保護者のパーティにお招きいただいています。このパーティをいつもホストしてくださるご夫妻が今年結婚25周年とのことでしたので、4月のパーティでは、家内の歌と私のギターで世俗のラブソングを一曲披露させていただきました。関係が一段深まることを願い、祈りつつ準備しましたが、とても良い反応をいただきました。私ども夫婦も今年10月で結婚25周年を迎えますので、教会の場所をお借りして記念の会を開催し、そちらにつなげて行きたいという思いが与えられています。この種のイベントであれば、普段教会に無関心な方にも声を掛けやすく、教会の場所に来てクリスチャンの方々と出会うことが、きっと福音の前進につながるのではないかと考え、構想を練っているところです。

いろいろとアイデアと構想はあるのですが、様々に思い巡らし、祈る中でいつも行き着くのは、「生きておられる神様が豊かに働いてくださり、その働きが誰の目にも明らかになるような教会になりたい」という願いです。前号でも申し上げましたが、私たちの教会が祈りの群れとして立ち上がっていくことを、何よりも望んでいます。この記事を読んでくださる方々の背後の祈りも、大きな支えとなります。どうぞお祈りいただけましたら感謝です。

クロスオーバー日本人教会 (カナダ・カルガリー)

谷口みゆき

教会は、未だ無牧ですが、主が与えてくださっている愛する兄弟たちと共に礼拝を守っています。メッセージと賛美リードは、主にインターネットからです。

去年は、コアだった兄弟たちが次々と日本に行ったため、中心となって活動する人たちが、いなくなっていました。ついに教会を閉じる時期かとも思い、悩みましたが、そうしようとする、新しい方々が毎回の礼拝に与えられています。その新来者のなかで、4人の方々が信仰告白をされました。彼らが洗礼に導かれるように祈っています。

また、バンフのGrace Japanese Christian Churchが、私達をいつも祈りに覚えてくださり、支えてくださっています。榎牧師のご指導のもと、祈り会と聖書の学びに参加させていただいています。彼らは年に何回か、カルガリーの日本人教会の人たちをお誘いくださり、カナディアンロッキーのふところに包まれて、野外合同礼拝をしてくださっています。

カルガリーのもう一つの日本人教会であるGrace Pointも、賛美集会など、彼らの教会のイベントに招待してくださり、よいお交わりが与えられています。

「見よ。なんとという幸せ なんとという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって とともに生きることは。」詩篇133：1

まさに、このみ言葉の恵みを、主は私達に与えて下さり励ましを受けています。

数年前から与えられているみ言葉、「私のたましいよ、どうしてそんなに気落ちしてふさぎ込むのか。神に何もかも任せなさい。きっとすばらしい助け手が差し伸べられ、感謝の思いに満たされる。」詩篇43：5 このみことばを握って、主が私達にすばらしい牧師を送ってくださることを祈り続けています。その時は、主への感謝の思いに満たされて、大泣きすることでしょう。



ゴスペルしろあむ教会・パロマ日本語バプテスト教会

稲富祐一郎

ハレルヤ！暖かい南カリフォルニアから主の愛を送ります。2026年はハガイ書2：9から「この宮の栄光は、先のものにまさる」というテーマが与えられました。シロアム、パロマ、共に御霊によって歩いていく中で、これから後の栄光、イエス・キリストに希望をおき、私たちを通して主の栄光が現される人生を歩いていくことをチャレンジしています。まず、主から与えられたこの御言葉に期待し、宣言していくことは、特にシロアム教会が新しい会堂のために捧げてきた祈りに対して、主がどのように答えてくださるのか期待し、待ち望むチャレンジにもなりました。引越しまで後1ヶ月というタイミングで挙げられた候補教会が一つありましたが、家賃は予算を遥かに上回り、他にもすぐに決断ができない課題点がありました。しかし、その中で役員をはじめ教会員の方々が、共に教会のために祈ること、教会を愛すること、教会のために何ができるかを考えるよう主が導いてくださりました。主は、会堂を見つけることではなく、私たちが主の共同体として共に主を愛し、共同体を愛し、仕え祈ることを願っておられたのではないのでしょうか。そして、引越しまで2週間、最後の最後というタイミングで主が新たに、礼拝する場所を与えてくださいました。South Pasadenaという普通では考えられないほどの治安、立地の良い場所にある教会の牧師が快く受け入れてくださり、4月末よりSouth Pasadena Christian Churchに移動し、礼拝を捧げています。また、South Pasadenaには日本人が多くおられると耳にしており、伝道の場所となることを祈っております。会堂のために捧げてくださった皆様の一つ一つのお祈りに心から感謝申し上げます。



4月には洗礼式がありました。留学生としてアメリカに来た学生2名がイエス様と出会ったことを共に喜び感謝する素晴らしい時となりました。現在、留学生と出会うこと、そして伝道することは変わらず難しく感じております。しかし、そのような状況下でも主が一つ、二つと魂を送ってくださり、触れてくださっていることに心から感謝しています。フライデー伝道ミニストリーにおいても主が少しずつ日本人留学生をつなげてくださっています。特にパロマでは留学生に出会うこと自体がとても難しい状況です。その中でも、主は救われる留学生たちを起こしてくださり、主の御業を誉め称えるばかりです。パロマも様々なチャレンジがありますが、こういう時にこそ、御言葉に根を張り、祈りを積むことを願われていると思い、対面での祈祷会も再開されました。共に祈りいただけますと幸いです。

また、4月末にはリトリートを行いました。今回は第1コリント14：1から、「愛need you!」というテーマを掲げ、共に愛を追い求めるチャレンジをしました。今年は特にシロアム、パロマの他にJCPNやNOVA教会開拓に関わっている州外の兄弟姉妹が多数参加してくださいました。彼らが、このリトリートを通してそれぞれの教会を愛する想いが与えられ、祝福の器として用いられることを期待しています。

これからもシロアムとパロマが主の心を求め、御霊によって歩いていくことができますように、また与えられているミニストリーに仕える中で私たちが誰よりも主の愛を求めていけるように祈っていただけますと幸いです。



「真珠湾を望む丘の上の教会から」

パールシティ第一バプテスト教会 石渡敬子

真珠湾を望む丘の上の教会から、アロハ！

日ごろより、私たちの教会のためにお祈りくださっていることを、心より感謝申し上げます。私たちの教会では、日本語での礼拝、バイブルスタディ、祈祷会、交わり、コミュニティへのアウトリーチを大切にしながら歩んでいます。

昨年9月より、新たな働きとして「にほんごプレイグループ」を開始しました。日本語を話す子どもたちとその保護者の方々（主にお母さまたち）が集まり、子どもたちは教室内や屋外のプレイグラウンドでのびのびと遊んでいます。一方、お母さまたちは、日本語で安心して語り合える交わりの時を持っています。異国ハワイでの子育てに励んでおられるご家庭にとって、支えの場となれたいと思っています。参加されている皆さんの多くが、「教会の敷地に足を踏み入れるのはまったく初めて」という方々ですので、このミニストリーを通してイエスさまの愛が伝えられますようにとお祈りください。

また、パールシティにあるシニアリビング「プラザ・パールシティ」での日本語バイブルスタディを継続しています。月に一度集まり、聖書のみことばに基づいて「人生の目的」について共に学び、分かち合う恵みの時が与えられています。

ハワイ日本語キリスト教会連合（AHJCC）との協力関係も継続しており、日本語による二つのラジオ番組「連合アワー」と「心に光を」を地元の日本語ラジオ局Radio KZOOからお届けしています。最近、「心に光を」がApple PodcastsやSpotifyでもお聴きいただけるようになりました。私もラジオメッセンジャーの一人として奉仕しています。ぜひApple PodcastsやSpotifyで「心に光を」と検索してお聴きください。

新しい働きが始まった一方で、9年間にわたり続けてきたワイキキ日本語礼拝は、昨年末をもって一区切りを迎えました。これまで支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。引き続き、私たちの働きのためにお祈りくださいますよう、よろしくお願いいたします。今後とも主の導きの中で、一步一步前進してまいります。



やすらぎキリスト教会

前回のニューズレターでも書きましたが、昨年やすらぎ幼稚園は、キリスト教の価値観に基づいた教育の場を提供し、子どもたちが健やかに成長できるよう祈りと奉仕をもって支えて10周年を迎えることができました。幼稚園での福音の種まきとして、朝の会での賛美と聖書の話、子どもたちが行う朝の祈り、おやつやランチの前の祈りなど。子どもたちも大きな声で「愛する天の神さま～」と祈ってくれております。



11月には感謝祭を通してすべてのことに感謝することを学び、ピルグリムとネイティブアメリカンの出会いを職員が劇を通して子どもたちに教えています。最後は、やすらぎアフタースクールのお兄さんお姉さんが賛美を歌いながら、自分たちが作ったサンクスギビングのギフトを幼稚園の子たちに配り感謝な時間を過ごしています。12月のクリスマス発表会では、たくさんの保護者の皆さんの前で子どもたちがキリスト降誕劇を行ってくれています。また、クリスマスイブには、キャンドルサービスを通して イエス様の誕生をお祝いしています。

そして、私たちの幼稚園の特色として、イースター復活祭の時には、クリスチャンの職員が先頭に立ち、子どもたちの足を洗う洗足式も行っております。子どもたちに洗足の意味を説明して、一人一人の子たちの足を洗いながら祈っております。子どもたちはぬるま湯に足を入れるのを楽しんでいます。その後は、賛美をし子どもたちが待ちに待ったエッグハントをしています。また、Good Fridayには、近くの公園を借りて運動会も毎年行っております。このように園児やその保護者との関わりを通じて、日々 福音の種まきをさせていただいております。そのお陰で、他教会の牧師さんのお子さんやクリスチャンホームで育てているお子さんも何人か通ってきてくれています。時々、幼稚園に通うお子さんと親が教会に来てくれることもあり感謝なことです。このようにやすらぎキリスト教会は信仰を継承する働きが目に見える大きな組織拡大よりも、一人ひとりの心に寄り添うものでイエスキリストによる真のやすらぎをあたえて行けるよう祈りながら進んでいきたいと思ひます。そして、やすらぎ幼稚園を巣立った子たちがいつか、イエス様を信じ教会に戻ってくれることを信じて日々祈っています。



「おハウディーございます！」から始まる教会生活

「おハウディーございます！」私たちの教会では、日曜日の朝、この挨拶を交わします。初めて来られる方も、この言葉に思わず笑顔になります。私たちは、聖書66巻を神の言葉として信じ、毎週みことばを学んでいます。その学びを通して、主が今も生きて働いておられることを日々実感しています。

礼拝後には、お茶を囲みながら楽しい交わりの時を持っています。コーヒーやお茶、お菓子を囲みながら、ゲームやクイズ、自己紹介ゲームなどを楽しみ、礼拝で教えられたことや心に残ったことを分かち合っています。また、「牧師からの一言コーナー」では、その週に読んだ聖書箇所から、実生活への適用や難解箇所の解説などが語られます。礼拝説教では語りきれなかった内容をさらに深めています。皆さん一人一人の成長と、どんな人、未信者に対してもアプローチ出来るようなクリスチャンなってもらいたいと願うからです。そして何より、お互いのために祈り合う時間を大切にしています。学校の勉強、仕事、病気、家族のこと、導いている方々のため、ナイジェリア出身の方を通してクリスチャン迫害のためにも祈っています。教会が「祈りの家」とされていることを実感するひと時です。

3ヶ月に一度の「クラフト教室」も、楽しい交わりの時間となっています。クラフトが得意な方がリードしてくださり、和やかな雰囲気の中で交流を深めています。また、毎週土曜日には教会清掃のボランティアも行われ、多くの方が喜んで奉仕してくださっていることに感謝しています。

水曜日のバイブルスタディーでは、日曜日に十分扱えなかった内容をさらに詳しく学んでいます。最近来ようになられた方が「こんなに近い距離で詳しく聖書を学べるのは本当に贅沢です」と言ってくださり、私自身も励まされています。また、積極的な質問を通して、私自身も多くを学ばされています。時には「宿題にします」と持ち帰ることもあります。それもまた良い刺激となっています。

金曜日の夕べには、「Yarou Bible Study」が始まりました。男性たちの要望から始まった集まりで、仕事帰りに軽食を囲みながら、率直に語り合える良い時間となっています。共に映画『Forge』を鑑賞したこともあり、信仰の仲間の中で成長していくことの大切さを改めて教えられました。「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」(箴言27:17)のみことばのように、互いに励まし合いながら歩んでいます。

2025年夏には、一人の青年が信仰へと導かれ、信仰告白をしてバプテスマを受けました。教会全体にとって大きな喜びの時でした。自主的にプレゼントを用意してくださる方々もおられ、他者の喜びを共に喜ぶ教会の愛に感謝しました。

また、2025年秋から2026年春にかけて、コロラド、ハワイ、セントルイスの教会に招かれ、説教の機会をいただきました。先生方とのコイノーニアを通して、多くの励ましと学びが与えられました。ハワイ滞在中には、息子が人生で初めて説教を担当しました。かつて礼拝中によく眠っていた息子が、堂々とみことばを語る姿に驚かされ、主を崇めました。一人一人が主にあって大きく成長していくことを心から願っています。

これからも、みことばを愛し、祈り合い、励まし合いながら、主にある「コイノーニア」を大切に歩んでいきたいと願っています。

Japanese Megumi International Church of San Antonio

小西健二



JIBC of Tacoma教会活動報告 2025年5月～ 2026年4月

(1) 2025年6月には、日本から井上薫牧師と比呂子夫人ご夫妻をお迎えして、各家庭集会と、特別伝道集会でご奉仕をしていただきました。

(2) 8月には、**JIBC of Tacoma**家族修養会（**OIKOS**）に、日本から長沢崇史牧師をお招きしました。長沢崇史牧師によるメッセージと賛美リードをとおして、今、日本の若い世代の間で起こされている賛美集会によるリバイバル運動の恵みを、体験することができて、たいへん恵まれました。

(3) 8月から月1回、お母さんと乳幼児が集う「よちよちクラブ」がベルビューで始まりました。

(4) 9月には、竹内**Riki**宣教師（竹内牧師の長男）と**Stephanie**夫妻が、シリアへの長期宣教（5年計画）の使命を受け、シリアの隣国レバノンへ派遣されました。現在、ヒスボラ掃討地域であるレバノン南部の戦争被災地から逃れて来た難民に対して、食糧支援と宣教活動を行っています。

(5) 10月には、パンデミック期間中、途絶えていた「霊的戦いセミナー」を、日本の新城教会の主任牧師である滝元順牧師を講師にお招きして行いました。

(6) 2026年4月には、タコマ**JIBC**の4名が、北米から10名のチームを結成して、10日間にわたる日本宣教に参加し、10名が信仰告白をして救われると言う恵みをいただきました。

(7) 2026年3月に、教会のメンバーが、スイスのローザンヌの**YWAM**で、結婚式をあげ、宣教師としてローザンヌ**YWAM**でワーシップスクールを指導しています。この宣教師夫妻は、現在4月と5月の2か月に渡り、タコマ**JIBC**にて、ユースミニストリー、若者たちの賛美集会をリードし、奉仕をしています。この宣教師夫妻の使命とする長期宣教地は、日本です。



祈りの課題

(1) 竹内リキとステファニー宣教師夫妻を始め、派遣された宣教師たちの活動と安全の上に。

(2) 小さなお子様を持つお母さま方と子供達へのアウトリーチの為に。

(3) 教会使命を継承する次世代のリーダーが起こされるように。

牧師 竹内正臣

日本インターナショナルハーベスト教会 生方義憲 (ミズーリ州セントルイス市)

JCPNと諸教会を覚えていつもお祈りして下さることを感謝します。

2026年の春までの近況とお祈り課題を少し書かせて頂きます。

今年は1月1日ではなく、2026年最初の主日礼拝を新年礼拝とお祝い会としました。約80名の方達が出席しました。クリスマス礼拝に来られた方達の中からまた来て下さる方がいて、福音を伝え、共に新年をお祝いするととても感謝な時となりました。作りたてのお餅や伊達巻、煮物、お雑煮などを美味しく頂きました。

2007年2月から主日礼拝を開始しましたので、今年2026年2月で19年が経ちました。この19年間、同じSouthern BaptistのRock Church of St. Louisが私たちに場所を提供して下さいたことに心から感謝したいです。主日だけではなく、平日も自由に彼らの建物を使わせて下さっています。昨年時々、合同礼拝をすることがありますが、今年も3月22日に合同礼拝をし、私たちの教会の賛美チームが賛美をリードし、私が日本語で説教し、英語の通訳を入れてバイリンガル礼拝を合同で捧げました。

開拓の最初から午前中に礼拝できる場所を祈っていたので、Rock Churchが主日の午前中に彼らのFellowship Hallを礼拝場所として使わせていただけることは、とても感謝なことでした。

このように居心地が良いことは感謝なことですが、数年前から将来の建物のために建築基金を作り、祈り、献金を捧げるようにしました。一般献金からの積立と毎年2回、会堂のために祈り、捧げる月を定めています。今年は、5月と10月を将来の会堂のため祈り、捧げる月間とする予定です。セントルイスでの日本語コミュニティに福音を伝え、主の弟子を育てるために効果的に用いられる建物を、主の最善の時に、主に栄光が捧げられる方法で与えられることをお祈りして下さいと感謝です。

また近年は子供のいる家族への伝道への機会を祈っています。今まで与えられた子供達は、成長し、ユースが活発になってきたのはとても感謝ですが、中学生以下の子供になかなかリーチアウトできていません。子供や子供のいる家族へ主の福音を伝える機会が与えられるようにお祈り下さると感謝です。セントルイスで一番大きな日本語コミュニティは日本語補習校であります。教会からは今一家族が3人の子供を送っていますが、近々州外へ引っ越す予定です。牧師が理事長として、牧師夫人がイベントを助けたりして、関係を持っていますが、この補習校から救われる子供と家族が起こされるようにお祈りください。また、これからも補習校の家族への伝道と関係作りのために、重荷を持った家族が与えられるようにお祈り下さると感謝です。



新年礼拝



1月4日、新年礼拝後のお祝い会

リンウッド日本人ファミリー教会 (LJFC)

LJFCのビジョンは「神様の愛を受け、神様の愛に生き、神様の愛を日本人とその家族や友人に届ける教会」です。あれこれいろんなプログラムをしているわけではありませんが、礼拝メッセージをはじめ、バイブルスタディやスモールグループの中で神様が一人一人に語ってくださり、触れてくださり、教会を築いてくださっています。

LJFCでは「今年のビジョン」はありません。毎年、神様がしてくださる事、起こしてくださる波に乗っていくのがLJFCの特徴です。ここ数年の中で神様が起こしてくださった波をご紹介します。

1. 教会の若返り

コロナ前に教会に初めから来ておられる方々を中心に、（私も含めて）平均年齢が上がってきたな、と思っていました。コロナ中だったので何ができるわけでもなく、ただ祈っていました。するとコロナが明けてから一組、そしてまた一組と合計4組の30代のヤングカップルが与えられました。

そしてしばらくするとそれぞれに赤ちゃんが生まれ、今では3歳児を筆頭に5人の子供がいて、秋にはもう一人生まれます。いつの間にか0歳から60歳台まで各年齢層がいる教会になっていました。まさに神様がLJFCは次世代にも続くんだよ、と言っておられるようでした。

2. 食事ボランティア登場

毎月最後の日曜日に持ち寄りで礼拝後に一緒に昼食をしています。最近、毎月第1、2日曜日にみんなの食事を用意してくださる方が現れました。お陰で初めてきた方や、未信者の方と色々と話せる時間が増えました。

3. 韓国からのお客さん

3月には、牧師夫人の職場の同僚の韓国人クリスチャンの方の紹介で韓国からキム・ドヒョンさんと言うアーティストが来てコンサートをしてくださいました。土曜日、日曜日と連日のコンサートに沢山の方が来てくださいました。

これからも神様がどんなことをしてくださるのか楽しみです！



皆さま、いつも光シティ教会のためにお祈りとご支援をありがとうございます。おかげさまで、光シティ教会はデトロイトの地で教会をスタートしてから、3年半を迎えることができました。主の守りと導き、そして日本の皆さまのお祈りによって、ここまで歩んでくることができたことを心から感謝しています。

今年のイースター礼拝には、多くの方々が来てくださいました。初めて教会に来られた方や、久しぶりに礼拝に参加された方々もおられ、礼拝後も食事を囲みながら自然と会話や交わりが生まれ、とても温かい時間となりました。「また来たいです」と声をかけてくださる方もおられ、復活の希望のメッセージが一人ひとりの心に触れていることを感じています。



4月後半には、日本での教会の働きと交わりのために6年振りに一時帰国する機会が与えられました。今回の帰国では、日本各地の牧師先生方や働き人の方々と交わりを持ちながら、これから日本へ帰国していく方々を送り出す教会として、日本国内の教会とのネットワークづくりも行うことができました。デトロイトには、自動車産業や仕事の関係で、一時的にアメリカに滞在している日本人の方々が多くおられます。そして近年、光シティ教会にも、「数年後には日本へ戻る予定です」という方々が増えてきています。私たちは、ただアメリカ滞在中だけを支える教会ではなく、日本へ帰国した後も信仰の歩みが続いていくことを大切にしたいと願っています。

海外生活の中でイエス・キリストと出会う方も少なくありません。しかし、日本へ帰国した後、教会につなげられず、孤独の中で信仰から離れてしまうケースもあります。そのようなことがないように、日本の教会と協力しながら、「送り返す教会」として一人ひとりの信仰の歩みに寄り添っていきたいと願っています。

また、4月7日から9日にかけて、妻のそにさんがJCPNの夫人リトリートに参加し、賛美リードの奉仕をさせていただきました。先生方の奥様たちと共に祈り、賛美し、励まし合う恵みの時間が与えられたことを感謝しています。

最近の光シティ教会では、インターナショナルカップルの参加が増えていることも特徴の一つです。また、日本に住んだ経験のあるアメリカ人の方々も多く来られており、日本語と英語が飛び交う、多文化ならではの交わりが与えられています。文化や背景は違っても、イエス・キリストにあって一つの家族とされていることを毎週のように感じています。

家族の近況としては、妻のそにさんが働き始めたミシガン・バプテスト州連合（Baptist State Convention of Michigan）での経理の仕事にも少しずつ慣れ、感謝をもって楽しく働いています。英語でのオフィスワークという新しい挑戦の中で、神様が支えてくださっていることを感じています。また、娘の麗歌も元気に成長しており、小学5年生が終わろうとしています。最近は日本語の漢字も少しずつ覚えられるようになってきました。アメリカで育ちながら、日本語と英語の両方に触れながら成長していることを感謝しています。

これからも、デトロイトの地で、日本人をはじめ様々な背景を持つ方々に福音を届けていけるよう歩んでまいります。引き続き、光シティ教会の働きと私たち家族のためにお祈りいただけましたら感謝です。主にある感謝を込めて。



編集後記（JCPN日本支部）

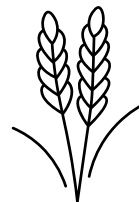
わたしたちJCPNは、主の十字架のあがないと復活信仰に生き、アメリカでの日本人教会開拓伝道の使命のためにアメリカ全土と日本の沖縄・鳥栖・会津において宣教活動しています。今後もJCPNは、主を畏れ敬いつつ、主が必ず起こしてくださる新しいリバイバルのために、日々、前進しております。今後とも、JCPNがアメリカ全土、そして日本において、新たな日本人教会を開拓し、日本とアメリカのリバイバルの懸け橋となることができますようにお祈りとお支えをよろしくお願いいたします。

本ニュースレターの送付先につきましては、変更・追加のご要望がございましたら、大変お手数ですが、下記の日本支部事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

また、ニュースレターはEメールで配信することもできます。ご希望の方は下記連絡先までご一報いただければ感謝でございます。

2026年5月

JCPN日本支部事務局
代表責任者 高木康俊
スタッフ一同
〒174-0046 東京都板橋区蓮根2-31-10
電話：03-3967-1798
Eメール：hasune.b.c@gmail.com
<http://hasunebaptistchurch.com/>



JCPN日本支部の活動報告

- ・ 日本支部は東京都板橋区にあるJCPNと宣教協約を結ぶ蓮根バプテスト教会がJCPN日本支部事務局を兼務しています。
- ・ 年に一回、JCPNニュースレターを発行し、JCPNの教会とJCPN支援会の皆様及び日本全国の諸教会にJCPNニュースレターを届けてJCPNの諸活動を日本の各地域に伝え続けています。
- ・ JCPNから日本に帰国した方々へのフォロー活動。
- ・ JCPNの牧師の日本国内での活動の支援。（JCPNの牧師の日本国内での宣教活動の支援。集会会場の提供など）
- ・ 沖縄ゆいまーる石川キリスト教会への教会開拓支援（経済的支援・伝道チーム派遣など）
- ・ 鳥栖宣教センター及び会津での開拓支援（横井牧師夫妻の日本での教会開拓支援）

JCPN日本支部 2025年1～12月 会計報告

（収入）	（支出）	（差引残高）
1,206,366	264,053	942,313（円）

JCPN日本支部 2026年1～4月 会計報告

（収入）	（支出）	（差引残高）
961,672	20,292	941,380（円）

日本に帰国される方でJCPN日本支部や蓮根教会で奉仕を希望される方がおられましたら、ぜひご紹介ください。

JCPN日本支部（蓮根教会内）



蓮根バプテスト教会主日第二礼拝

JCPN 加盟教会（2026年5月現在）

- ・日本インターナショナルバプテスト教会（オレゴン州ポートランド）
- ・日本インターナショナルバプテスト教会（アリゾナ州フェニックス）
- ・日本インターナショナルバプテスト教会（ワシントン州タコマ、ベルビュー）
- ・ごすぺるシロアム教会（カリフォルニア州パサデナ）
- ・パロマ日本人バプテスト教会（カリフォルニア州エスコンディード）
- ・リンウッド日本人ファミリー教会（ワシントン州リンウッド）
- ・日本インターナショナルハーベスト教会（ミズーリ州セントルイス）
- ・日本ホープマウンテンファミリー教会（コロラド州デンバー）
- ・オーランド日本語バプテスト教会（フロリダ州オーランド）
- ・パールシティ第一バプテスト教会日本語部（ハワイ州パールシティ）
- ・ユージーン日本語バプテスト教会（オレゴン州ユージーン）
- ・ピッツバーグ国際日本語教会（ペンシルベニア州ピッツバーグ）
- ・日本恵みインターナショナル教会（テキサス州サンアントニオ）
- ・やすらぎキリスト教会（カリフォルニア州ガーデナー）
- ・光シティ教会(ミシガン州デトロイト)
- ・ゆいまーる石川キリスト教会（日本・沖縄）
- ・サンディエゴ希望教会（カリフォルニア州サンディエゴ）
- ・バンクーバー日系人聖書教会（カナダ・バンクーバー）

